

『菩薩を生きる ~入菩薩行論~』

シャーンティデーヴァの厳しくも慈愛に満ちた言葉のひとつひとつが
私たちが見失いかけている本当の幸福への糸口になるでしょう。



12/7全国書店・ネット書店で発売!

ジャンル:古代チベットの仏教經典。
自己啓発。道徳。
読者層:仏教に興味がある方。一般にも
文学作品のように読むことができる。
定価:1,900円+税(1,995円)
著者:シャーンティデーヴァ
訳者:寺西のぶ子
監修:長澤廣青
出版社:バベルプレス
判型:四六版ハードカバー
頁:399ページ
ISBN:978-4-89449-123-6

シャーンティデーヴァの言葉は、ありふれた日常で、私たちが忘れかけている道徳心、他を受け入れて思いやる心、全てに平等に接する温かい心、このような菩薩の心を持って生きることの素晴らしさを伝えている。

1300年前の古代から読み継がれている「入菩薩行論」。日本ではあまり知られていないが、聖書のような位置づけの教え。これまで翻訳されたものは、解説が多かったり、難解であったりしたため、一般の方が手にとる機会は、あまりなかったかもしれない。

しかし本書では、シャーンティデーヴァの美しい詩のような言葉を前面に出して、仏教經典の雰囲気を残しつつも読みやすく訳され、優れた仕上がりになっている。「付録」も見逃せない。シャーンティデーヴァの生涯や、仏教用語を説明した「註」も充実している。

多くの日本人に、今、シャーンティデーヴァの言葉を伝える事は、監修者の長澤氏の運命的な使命のようだ。本書の出版は、長澤氏の様々な偶然の一致(必然)や不思議な体験に導かれている。

【著者:シャーンティデーヴァ】

偉大なるシャーンティデーヴァは、インド南部の王国、サウラーシュトラに生まれる。国王カリヤーナヴァルマンの子で、幼名をシャーンティヴァルマンといわれた。幼い頃から仏陀を敬い、ごく自然に大乘仏教に親近感を抱き、宗教教育者や僧団を崇敬していた。そして、師であろうと使用人であろうと、すべての人に恩恵を施し、身分の低い者や病人、貧窮者を心から気遣って世話をした。

【監修者プロローグ】

千三百年以上前のシャーンティデーヴァの言葉のひとつひとつは今の時代にもなお重要な意味を持つ。大乘仏教の教典ではあるが、読むにあたってはむしろ古代の詩や文学作品に接するかのような態度でも良いのではないかと思う。

偶然開いたページの一行に大切なメッセージを見つけるかもしれないし、あるいはじっくり読み込んで菩薩行の本質を体得するのも良いだろう。いずれにしてもシャーンティデーヴァの神聖な論書は読者の心の変容に大きく貢献するに違いない。

(目次)

第1章	菩提心の恩恵	第8章	禅定(ぜんじょう)
第2章	供養と帰依(きえ)	第9章	智慧(ちえ)
第3章	菩提心の理解	第10章	廻向(えこう)
第4章	菩提心の堅持	付録1	シャーンティデーヴァの生涯
第5章	正知(しょうち)の守護	付録2	自他の平等
第6章	忍辱(にんにく)	付録3	自他の交換
第7章	精進	註、エピローグ、記者あとがき	

以上、ご高評くださいますよう、お願い申し上げます。

【本件に関する問い合わせはこちら】

TEL:03-5211-3727 email:press@babel.co.jp

(担当:藪下)バベルプレス(株式会社バベル)HP:http://www.egaiasyoten.com/